

# 白内障手術「極小切開法」の時代へ

## 米国で開発、僅か2ミリの切開創からの吸引法 「専門医3冠」の村上茂樹院長が会得実施

### 最先端医療技術

人は高齢になると体に老化の現象が現れるが、日常生活に即、支障を来たすのが眼の視力低下だ。特に眼がかすんだり、まぶしくて物が見えにくくなる白内障は、水晶体(カメラでいうレンズの部分)が濁ってしまふ病気で、放って置けば緑内障など余病も併発して、失明にもつながりかねない。

その白内障の手術に最近画期的な方法が取り入れられた。「極小(マイクロ)切開法(MICS)」と呼ばれるもので、従来、11ミリ以上も大きく切り広げて、水晶体の核を丸ごと摘出して、超音波乳白内障の手術が、僅か2ミリの切開創から、濁った水晶体を超音波で細かく分解して吸引除去するという画期的方法だ。

一昨年アメリカで開発され、昨年から日本でも実施された。このため、全国の眼科医でも実施している所は少ないが、先頃「専門医3冠」を取得して脚光を浴びた宇土市南段原町の「むらかみ眼科クリニック」の村上茂樹院長が、この術技をいち早く会得実施、またも注目を集めている。村上院長に聞いた。

### 「極小切開法」の利点

「白内障のこれまでの手術はどんなものだったのですか？」

「従来は、切開創を11ミリ以上も広げて混濁の原因である水晶体の核を丸ごと摘出する『囊外摘出術』が行われていました。しかし、近年の手術は4ミリの切開創から濁った水晶体を超音波で細かく分解して吸引除去する『超音波乳白吸引術』が主に行われるようになりました」

「さらに最近では、僅か2ミリの切開創から、新しく開発された柔軟な高品質眼内レンズを小さく折り畳み、細い筒状の器具を通して眼内に安全挿入する『極小切開法(MICS)』が、昨年頃から日本でも実施されるようになりました」

「その『極小切開法』のメリットはどんなものですか？」

「まず、手術による炎症を最小限に抑えることができ、創口の治癒も早く、強度も強く保てることです。それによって術後の乱視も発生せず、より早期に安定した視力の向上を得ることができるようになりました」

「手術は痛くありませんか。また、時間は？」

「手術のための麻酔は、極小切開のため、目薬のような優しい点眼麻酔だけの局部麻酔で済み、眼の周囲の注射もしないため、手術中も殆んど痛みを感じません。手術時間は約10分〜20分程度で終了します」

「使用する眼内レンズの特徴というのはどんなものですか？」

「極小切開法の手術で用いられるこの柔軟な高品質眼内レンズは、ソフトアクリルレンズで最も多く使用され、主流です。『このソフトアクリルレンズは、他の全ての眼内レンズと比較して、後発(再発)白内障が起りにくいという優れた利点もあります。このように手術後、ほぼ一生取り替える必要がなく、良好な視力を保つことが出来るため、最近ではこのソフトアクリルレンズが世界で最も多く使用され、主流です。』

「最後に、極小切開法手術の費用の方はどの位かかりますか？」

「白内障手術及び眼内レンズの挿入手術ともに健康保険の適用となり、この極小切開法手術(MICS)でも負担額は変わりません。日帰り手術が可能となり、日帰りの場合は例えば、70歳以上の高齢者で1割負担の場合、負担金は約1万5千円。2割負担の場合は3万円程度となります。しかも、所得に応じた負担金の払い戻しが可能です。また、日帰りの場合でも、簡易保険を除く、ほとんどの生命保険で手術給付金が適用されます」

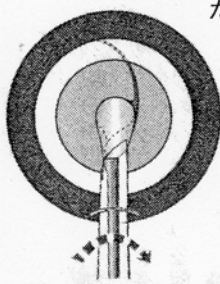
「ありがとうございます」

### より小さな切開創へ

従来の切開創11mm



最新の切開創2mm



最新の高品質眼内レンズ 僅か2ミリの切開創から小さく折りたたんで、細い筒状の器具から挿入可能で柔軟な高品質の眼内レンズが開発されました